

(新)環境中微量化学物質におけるアレルギー等の複合影響に関する基礎調査 6百万円(0百万円)

環境保健部環境安全課

1. 事業の概要

近年化学物質の複合影響について、がん原性や変異原性のみならず、神経・行動、免疫・アレルギー及び内分泌を主軸とする高次機能への影響にも着目すべきとの指摘がなされている。これら高次機能への影響は、それ単独で生命を脅かすものではなくとも、人々の生命や生活の質と密接に関連し得る症状・疾患を対象としており、比較的低濃度でのばく露でも発症する可能性も否定できない。

特に、フタル酸エステル、ベンゾピレン、ビスフェノールA等の一部の化学物質と、アレルギー性皮膚炎やアトピー性喘息等の単一あるいは複合的なアレルギー症状等との関連性を指摘する声が上がっており、近年アレルギー疾患が増加している背景の一つではないかと懸念されている。

このため、平成21年度から、環境中の微量な化学物質によるアレルギー等の複合影響等について、国内外の文献調査等により、当分野における研究・調査の現状を把握するとともに、その調査結果を踏まえた今後の研究計画について検討を行い、その後の影響評価手法及び知見の確立を目指す。

2. 事業計画

	H21	H22	H23
(1)国内外の文献調査、研究計画の検討		→	
(2)影響評価調査研究			→

3. 施策の効果

- ・環境中微量化学物質によるアレルギー症状等への影響に関する科学的知見の蓄積
- ・影響評価手法の確立
- ・環境排出管理等の今後の政策立案への反映

4. 備考

調査費 6百万円

(内訳) 環境中微量化学物質におけるアレルギー等の複合影響に関する基礎調査 6百万円

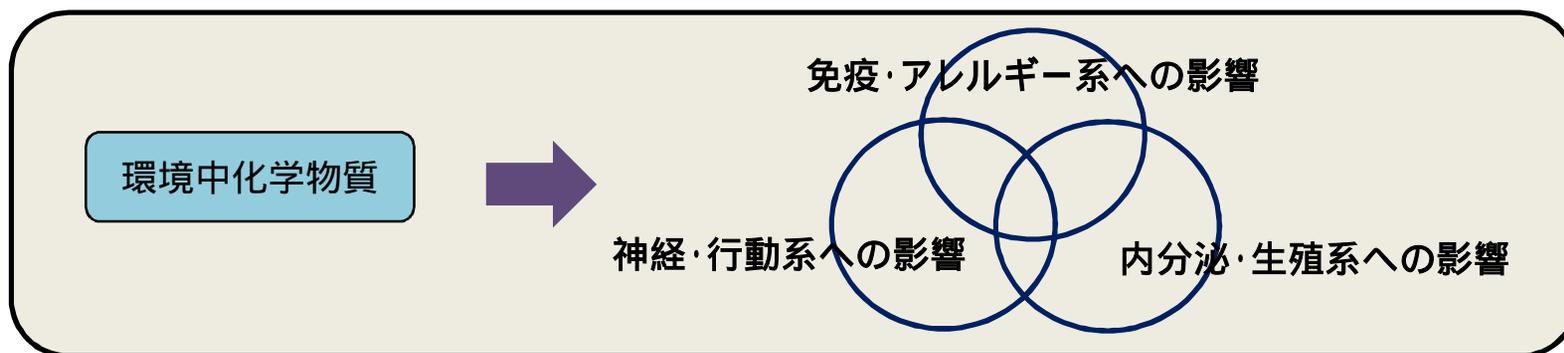
環境中微量化学物質におけるアレルギー等の複合影響に関する基礎調査

【背景】

アレルギー疾患(アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、気管支喘息、花粉症など)を有する者は、環境中の化学物質によって、症状が増悪する可能性が指摘されている。



化学物質によるアレルギー等の高次機能に対する複合影響を調査し、今後の環境リスク対策の必要性の有無等を検討する際の、知見の収集と評価を行うことが必要である。



【事業】

化学物質の免疫・アレルギー系への影響に関する情報の収集 (H21年度～)



国内外の文献調査

研究手法に関する検討

化学物質の免疫・アレルギー系への影響に関する基礎的研究 (H22年度～)